

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

鴨川運輸区(乗務ユニット)車掌廃止 特急車掌1人乗務化提案

労働強化・ワンマン化に繋がる攻撃

JR千葉支社は10月23日、「房総特急列車の乗務体制見直し」及び「業務執行体制の見直し」を提案しました。その内容は、「特急の車掌乗務を1人とする」(鴨川運輸区(茂原統括センター)鴨川乗務ユニット)から車掌行路をなくす」というものです。

特急の全区間で車掌1人乗務となれば、車掌の労働強化になることは明らかです。特急のさらなる削減や、ワンマン化のさらなる拡大にも繋がる

重大な攻撃です。

団結し反対の声をあげよう

また、現在の鴨川運輸区の20名超の車掌は全員が異動や担務変更を強制されます。

12月1日予定の西船橋乗務ユニット設置・船橋統括センター化でも70名規模の強制配転が進められています。会社は「組織の大再編」を通して職場のあり方を激変させ、ジョブローテーションも含めて大規模な強制配転を繰り返しています。会社はこの強制配転を、労働者同士を分断して競争に駆り立てることに利用しようとしています。

それは、会社の攻撃を打ち破る力が現場労働者の団結にあるからです。

会社の攻撃の矛盾は安全の崩壊、京葉線快速やみどりの窓口の一部復活などであらわになっています。特急1人乗務化・車掌廃止、融合化・ワンマン化に反対の声を上げよう。

【提案時の主な説明より】

○特急の車掌1人乗務について

- ・ 現行の車掌の乗務体制では、区間によって運転担当と改札担当が乗務している。次期ダイ改以降は基本的に1人に統一する。
- ・ 繁忙期や土休日、区間の混み具合によって2人乗務とすることもありうる。その場合、通常行路に組み込み、通常の勤務指定で行う。

○鴨川運輸区の車掌廃止について

- ・ 特急の車掌乗務を1人とする、鴨川の車掌行路が大幅ため鴨川の車掌行路を他区に移管する。
- ・ 行路数が少ないと、少ない人数で同じ行路ばかり乗務することになる。出張や研修などの際に、休勤が必要になる場合も出てくる。
- ・ 現行の車掌の行路数は日勤2行路、泊4行路。要員は20人強。車掌の指導担当は2名、副長1名。指導担当含めて異動になり、運転士だけの区になる。
- ・ 現在の運転士の要員は60人強。
- ・ 行路作成、要員体制の検討、業務移管についての周知、異動に伴う面談等は進める。
- ・ 移管先は未定。
- ・ 銚子に関しては特急の乗務を担当していない。木更津の要員等はこれから精査する。